

報道関係者 各位



Meiji University
International Institute for
Bio-Resource Research

明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート

2015年2月10日

～稀少・難治性疾患研究の新展開～
明治大学バイオリソース研究国際インスティテュートシンポジウム
「動物のゲノム編集とその医学応用」
を3月13日(金)、駿河台キャンパスで開催

明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート (MUIBR) は、シンポジウム「動物のゲノム編集とその医学応用」を、3月13日(金)に駿河台キャンパスで開催します。

シンポジウムでは、哺乳動物を対象とするゲノム編集技術や個々の疾患のモデルブタ(疾患モデル)の作出技術による難治性疾患研究の新展開について、ゲノム編集技術の1つである「TALEN」を用いた動物の研究で世界をリードする、米国ベンチャービジネス・Recombinetics社のスコット・ファーレンクラグ博士、筋萎縮性側索硬化症(ALS)研究の第一人者である井上治久・京都大学iPS細胞研究所(CiRA)教授、医学研究用の遺伝子改変ブタの開発で世界をリードする、長嶋比呂志・明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート所長(農学部教授)らによる最新の研究発表が行われます。

シンポジウム「動物のゲノム編集とその医学応用」

■日時: 3月13日(金) 13:00 ~ 16:30

■会場: 明治大学 駿河台キャンパス グローバルフロント グローバルホール (千代田区神田駿河台1-1)

■講演内容:

1. Scott Fahrenkrug (Recombinetics CEO)

「Editing Livestock Genomes for Food & Medicine」(家畜ゲノム編集の農業・医学利用)

2. 井上治久 (CiRA: 京都大学 iPS 細胞研究所 教授)

「iPS細胞を用いた神経疾患研究」

3. 黒目麻由子 (LAFUGA: ゲノム機能解析研究所 ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン研究員)

「大型モデル動物の必要性とその開発の現状」

4. 長嶋比呂志 (明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート所長/明治大学農学部教授)

「ブタのゲノム編集と疾患モデル開発への応用」

■主催: 明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート ■協力: 朝日新聞社

■申込方法: こちらのウェブサイトより、申込みをお願いします。

<http://www.meiji.ac.jp/koho/news/2014/150313.html>

<シンポジウムに関するお問い合わせ>

明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート ☎ 044-934-7824

<取材に関するお問い合わせ> 広報課 担当:角田(かくた) ☎ 03-3296-4330